

八代は心の原風景 郷里を舞台に映画を製作



▲中村市長を表敬した、遠山昇司監督(中央)と主演の米村亮太郎さん(右)

8月22日、オリジナル長編映画「マジック・ユートピア」製作発表のために、鏡町出身の映画監督遠山昇司さんと横手新町出身で俳優の米村亮太郎さんが、中村市長を表敬訪問しました。

「八代は心の原風景です。米村さんの出演シーンは八代で撮影したい」と遠山監督が発言すると「できる限りのお手伝いをしたい」と中村市長が応えました。主演の米村さんは「どこにでもいる市井の人を演じているので、身近に感じてもらえると思います」と鑑賞を呼びかけました。

遠山監督2作目の長編映画となり、オムニバス形式で3人の人生が交錯するストーリー。来年1月にクラクイン、4月に完成の計画で、ロカルノ国際映画祭(スイス)などへの出品を予定しており、一般公開は来年後半以降となります。

夏休みは親子で自然体験 キッズチャレンジ2014



▲会話を楽しみながら竹細工を楽しむ親子

8月17日、旧宮地東小学校と周辺の川で「キッズチャレンジ2014」親子自然体験「アイキャンプ」が行われ、市内から49組157人の親子などが参加しました。

これは市教育委員会の主催で、親子が一緒に時間を過ごし体験することで、驚きや感動を共有し、ふれあいを深めることが目的です。

今回は竹細工体験や魚のかみ取りなどが行われました。竹細工体験では、日常生活で使える箸や器、突き鉄砲を作製。子どもたちは日頃使っていた慣れない小刀に苦戦していました。親や地元住民による指導を受けながら作り上げました。宮地小学校2年の緒方愛姫さんは「竹が堅く小刀で削るのが大変でしたが、今日作った箸を早速使いたい」と笑顔で話しました。

入館者 300 万人達成 八代市東陽交流センター「せせらぎ」



▲300万人目の村上康子さん(左から2番目)

東陽町の東陽交流センター「せせらぎ」の入館者数が9月3日、平成17年2月の開業以来、約9年7カ月で300万人を達成し、同センターで記念セレモニーが行われました。

300万人目となったのは熊本市の村上康子さん。中村博生市長が温泉入浴券や地元東陽町の特産品であるショウガやトマトなどを贈呈しました。村上さんは「300万人目になってびっくりしました」と喜び、「この施設は気軽に来ることができ、新鮮な地元野菜を使った料理や温泉がいい」と笑顔で語りました。

同センターは、物産館やレストラン、温泉などがある複合型の施設です。運営する東陽地区ふるさと公社の永原辰秋代表取締役は「地域の皆さんに可愛がってもらえる施設にし、今後またたくさんのお客様をお迎えしたい」と語りました。

目指せ東京五輪

トップアスリート育成事業



▲八代市強化指定選手に選ばれた児童生徒たち

市では2020年の東京五輪へ八代から選手を出場させようと「トップアスリート育成事業」を始めています。

このたび7競技20人の強化指定選手が決まり、8月28日、八代ホワイトパレスで八代市強化指定選手指定証交付式が行われました。

松永松喜八代市体育協会長から選手一人ひとりに指定証が手渡された後、選手を代表して陸上短距離の深川恵充さんが「二歩一歩力を付けていきたい」と決意を表明しました。

式典後、「トップアスリートのための栄養管理」と題した食事指導会が行われ、管理栄養士の牧尾光子さんが、栄養フルコースの食事が持久力、集中力、瞬発力を発揮するのに必要であると講義しました。

※平成26年度の八代市強化指定選手は市ホームページの「まちのわだい」に掲載しています。

100歳おめでとうございます



吉田 マスエさん
(萩原町2丁目)
大正3年9月5日生



土生 重正さん
(上野町)
大正3年9月5日生

現在、次男夫婦と暮らしているマスエさん。坂本町で8人きょうだいの長女として生まれ育ち、結婚後は萩原町で夫とともに竹小舞（土壁の下地に使う細い竹）を手作業で編み込む仕事で生計を立て、6人の子どもを育てました。着物着付けが上手でみんなに喜ばれたというマスエさんの長寿の秘訣は「ストレスや悩みをためずに過ごしてきたから」。

現在、家族4人で暮らしている重正さん。8人きょうだいの3番目として八千把で生まれ育ち徳敬寺の15代目住職に。結婚後4人の子どもを授かりました。37歳の時に保育園の認定を受け八千把保育園を開園しました。趣味の囲碁を8歳ぐらいたままで楽しんだという重正さんの長寿の秘訣は「タンパク質と野菜をとり、毎朝一杯のお茶を飲むこと」。

マージャンで健康・仲間・生きがいづくり



▲インストラクター(中央)からアドバイスを受けながら牌を並べる参加者

9月4日、麦島公民館で市民教育講座「健康マージャン教室」が開催され、60歳以上の男女16人が参加しました。健康マージャンは「お金をかけない、タバコを吸わない、お酒を飲まない」が3原則。マージャンは常に耳目口と手先、頭を使って考えるゲームであるため、健康維持や老化・認知症予防、また仲間づくりや生きがいづくりにつながようと、生涯学習課が初めて開催しました。参加者は、熊本健康マージャン協会の築地孝昭理事長から賭けマージャンとの違いやルール、牌の種類などを学んだ後、麻雀牌を使ってあがりの組み合わせを作ったり、ゲームの練習をしました。最初は固い表情だった参加者も、実践に入ると会話を弾ませながら楽しんでいました。同教室は、来年2月まで毎週木曜日に全24回行われます。

八代塗装・防水組合がボランティア塗装



▲仕上げにペンキを塗って完成

市内の塗装業者などで組織する八代塗装・防水組合の組合員16人が、8月23日に千丁小学校で遊具などの塗装奉仕を行いました。これは、同組合が地域への奉仕活動として市内の小・中学校や保育園などで10年以上前から毎年行っています。組合員は、さび付きや腐食が目立つ鉄棒やうんていなどのさびを電動サンダーなどで落とし、さび止めを塗った後にペンキを丁寧に塗っていきました。作業は手際よく進められ、さび付いて色が剥がれ落ちていた遊具は見る見る色鮮やかな姿に変身しました。

さわやかヤングステージ



▲アメックスダンスチーム華紅羅の躍動感あるダンス

8月23日、やつしろハーモニーホールで「第16回さわやかヤングステージ」が行われ、市内の高校生や地域婦人会など8組が箏曲やダンス、書道などを披露しました。これは、犯罪や非行を防止し、罪を犯した人たちの立ち直りを支え、犯罪のない社会を築くことを目指した「社会を明るくする運動」の一環です。法務省熊本保護観察所の川田香所長が「自分が何ができるかを考えるきっかけとし、行動に移してほしい」とあいさつしました。ステージでの華麗で力強いダンスやパフォーマンスに会場からは大きな拍手が送られました。

全国小学生ABCバドミントン大会



▲懸命にシャトルを打ち込む山口竜蔵くん(KTジュニア)

第15回全国小学生ABCバドミントン大会が8月15日から3日間、市総合体育館と東陽スポーツセンターで行われ、各都道府県の代表326人が熱戦を繰り広げました。八代市で開催されたのは今年で8回目です。八代市からは田中佐彩さん(代陽小4年)、山口竜蔵くん(八童小4年)、田上翔和くん(松高小3年)が熊本県代表として出場し、全国の強豪と対戦しました。3選手は惜しくも入賞を逃しましたが、熊本県代表の森山紗帆さん(菊陽町)が女子Aグループで準優勝に輝きました。



日奈久街並み再発見



▲漁業や旅館用の氷室として使われていた日奈久に残るレンガ倉庫を見学

9月7日、日奈久の歴史を今に伝える建物を訪ね歩く「日奈久街並み再発見」が行われました。この催しは「九月は日奈久で山頭火」実行委員会が開催しているもので、今年で15回目。市内外から31人が参加し、明治20年創業の「鏡屋旅館」や明治43年創業の「金波楼旅館」などを2時間半かけて、じっくりと散策しました。日奈久温泉街案内人の会の高田榮昭さんの、日奈久イベント広場の棧敷席が個人所有だったことや板壁を叩いて力士を応援していたことなどの話に参加者は聞き入っていました。宇城市から参加した澤野勇雄さんは「路地の奥まで散策でき楽しかった」と満足そうでした。

始まるよお！ 九月は日奈久で山頭火



▲くまモンと一緒に山頭火イベントの紹介

8月30日、第15回「九月は日奈久で山頭火」が日奈久温泉一帯で始まりました。放浪の俳人「種田山頭火」が日奈久を訪れた際に「一生動きたくない」と日記（行乞記）に記したことを記念して毎年開催されています。初日は、オープニングイベント「始まるよお！ 九月は日奈久で山頭火」が日奈久ゆめ倉庫で行われ、関係者や地元住民など約100人が出席しました。絵手紙の表彰式や子どもたちの発表、山頭火クイズなどが行われ、山頭火に扮したスタッフによるイベント紹介ではくまモンが登場し、賑やかなイベントの幕開けとなりました。

長年にわたる献血に感謝



▲左から、石澤消防長、中村市長、井上総務課長、後列は本田さん

八代広域行政事務組合消防本部が献血功労団体として日本赤十字社から表彰を受け、8月25日、市役所で中村市長から表彰の伝達を受けました。これは、7月10日に愛知県で行われた「第50回献血運動推進全国大会」で、積極的な献血推進活動を行っている団体として表彰されたものです。10年以上の献血に対する功労で、日本赤十字社熊本県支部長感謝状（金枠）が贈られました。石澤消防長は「個人的に95回以上献血しているので100回以上を目指したい」と抱負を述べました。

郡築汐風かかし大会



▲出来栄を観察し、気に入ったかかしの番号を投票用紙に記入する児童

郡築汐風かかし大会に出品された手作りかかし15体が郡築小学校前の学習米田にお目見えし、9月9日、郡築小学校5・6年生72人が審査を行いました。この大会は、郡築汐風まちづくり協議会が校区民の絆を深めることを目的に開催したものです。校区住民に募集し、各町内の子供会や青年団などが応募。趣向を凝らして製作された、とまびんや今年話題になった映画のキャラクターなどのかかしが勢ぞろいしました。児童は、かかしをのぞき込むなどして観察し投票。10月12日の校区民体育祭で表彰されます。

邦楽入門コンサート



▲クラス別に箏の合奏に挑戦

9月9日、八代小学校で邦楽グループ「玉手箱」による和楽器体験「邦楽入門コンサート」が開かれ、全校生徒322人が参加しました。これは、文化庁の「文化芸術による子供の育成事業（巡回公演事業）」として行われているものです。一流の文化芸術団体が学校を巡回公演し、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につながるために行われています。6年生の内20人が箏の演奏に挑戦。「さくら」を玉手箱と合奏しました。演奏した田中暖乃さんは「譜面を見ると手元を間違えそうで大変でしたが、貴重な経験ができました」と話しました。

日奈久十五夜綱引き



▲綱を引き合う地元の人たち

9月8日、日奈久温泉街で毎年恒例の「日奈久十五夜綱引き」が行われ、地元住民ら約300人が満月の下で綱を引き合いました。これは明治時代から続いている行事で、日奈久の浜町と下西町の漁師が綱を引いて町内を走り、豊漁を願って綱引きをしたのが始まりとされています。神事の後、各町内で作った直径約20cm、長さ約20mの綱を引き、温泉街を駆け巡りました。最後に日奈久温泉センターばんべい湯前広場で互いの綱を結び、綱引き開始。「わっしょい、わっしょい」の掛け声と「頑張り」の声援が飛び交いました。